

---

## ジャックの日記

---

### 日記：地獄より...

これは、ジョン・Q. ピアースとして、またある時は「切り裂きジャック」として知られる私の日記である。

私は、自分自身に血の儀式を施したことによって、今こうして、私のマスターが「デッドサイド」と呼ぶ死後の世界に存在している。

邪悪さは、ここでは何よりも明白な存在だ。

この地獄こそ、私にとって価値有るものの全て、そして私が過去望んでいたこと全てである。

ここに私は、記念すべき業績として、未来永劫のために「苦痛の大聖堂」を建造しよう。

そしてそれこそが、唯一無二の存在でありながら、理解されることのなかった者たちにとって、来るべきハルマゲドンのための魂の家、ただ一つの避難所(アサイラム)となるだろう!

P.1

---

### <アサイラムの概要を示す>

我々は、アサイラムが崇高なる建造物であることを証明しよう。そして完成までには、ライブサイドにおいて1世紀が過ぎ去ることだろう。

完成の最終段階、私のマスターは、審判を下すため特別に準備した軍隊を送り込む。その橋渡しをするために、我々は彼が選んだ5つの暗黒の魂を、デッドサイドの境界を越え、ライブサイドへ送り込むことにする。

この計画をなし遂げるためには、この世とあの世とを繋ぐ導管となるものが必要だ。私はすでにそれをデザインした。

この世とあの世とをつなぐ一種のゲートである。それを「シズム(分立)」と呼ぶことにしよう。

このアイデアは、ある種の関連性を持つ2つの魂が、死の瀬戸際、あの世へ行くまさにその瞬間に、リンクを形成するという事実を背景にしたものだ。

P.2

---

### <「シズム」について示す>

シズムは、彼らを投影した5つのダークソウルに対し、送信用デバイスと受信用容器の2つの役割を果たす。そして彼ら自身を、彼らの血まみれの胸部の奥深くへと導き、境界を越えさせるために機能するだろう。

受信容器の役割をするシズムは、同じ心を持つ5人の人物達の力によって、彼らが夢見る名誉ある浄化が、彼ら自身の手によってもたらされるだろうその日！ライブサイドと呼ばれる場所で、流血に彩られた輝きの中に作り上げられるだろう。

2つの世界に共に建造されたシズム。その恐怖の鍵となるものは、彼らを開くことのできる、医学的な道具「リトラクター（牽引機）」である。

P.3

---

### <「シズム」の開き方とその残虐さについて>

そう！5つのダークソウルを境界の向こうへ送り込むという事は、同じ心を持った5人の人物がそれらをむさぼり食い尽くすということ。それによって、彼ら自身に暗黒の炎が燃え盛る不滅の生命を吹き込むであろう。

それだけではない。彼ら5人それぞれに埋め込まれた実体のコアとなっている水晶のもう一つの意味。それは、懐疑者が彼らを真の死に至らしめる道を阻み、それによって「ソウルゲート」の絶対安全なキーの役割を担うだろう。

P.4

---

### 〈「ダークエンジン」について示す〉

「The Five」、彼ら5人を阻止することは不可能である。

彼らは不滅の存在であり、栄光の道標として開かれた彼らは、私自身とも繋がった存在であるからだ。

なんという最高の栄誉か!

すでにシズムはあるべき場所に置かれている。そして食ら食う5人のダークソウルに活力を与え続け、それら5つの受信容器がより大きくなるための助けとなるだろう。

これこそ、彼のダークソウル軍団を受け入れる準備として建造すべき、「ソウルゲート」に他ならない。

…我ら多きがゆえに!

P.5

---

### 〈「ソウルゲート」について示す〉

シズムは、それを經由する「The Five」自身のダークソウルを投影する一方で、霊的存在の出現を可能にする。

つまり、審判のための軍隊を現実にも物理化する意味を包含している。軍隊を構成するもの、それは、怒れる暗黒の魂を持つ数多くの存在、そして"トゥルーフォーム"と呼ばれるもの達だ。

したがって、最後の審判の日、それは私のマスターの予告通りに、1,000年が切り替わるまさにその直前、間違いなくやってくるであろう。

「ソウルゲート」が開く時、世界に浄化と新たな時代の幕開けがやってくるのだ。

P.6

---

### 〈「トゥルーフォーム」について示す〉

もちろん、上記全てのメカニズムは、それらを稼動するためのエンジンを必要とする。  
偉大なるそのダークエンジンは、彼がアサイラムと呼ぶ場所の恐ろしい中心部に置かれている。

ダークエンジンはアサイラムに動力を供給するとともに、魂を送り込むための人口水路を制御する働きをする。そしてその保管場所には、彼の軍隊のソルジャー達が収容されている。  
そう、120にも及ぶ(現存することを知らされているダークソウルの数に対応している)“トゥルーフォーム”達だ。

私のマスターは、現時点でそれをたった5つ所有しているにすぎない。だが、彼の手下達が、より広範囲で未だ発見されていない残りの探索を続けている。

P.7

---

### 〈「魂の人口水路」について示す〉

ダークエンジンに利用される膨大な力の源となるものは、真の恐怖!  
私はそのために、完璧なメカニズムを考案した。

どんな破壊的な衝撃にも耐え、安定して稼動する巨大ピストンを、エンジンのメインブロックに組み込んだのだ。  
個々のピストンは、それぞれコンソールによって制御され動かされている。

P.8

---

### 〈各ピストンとコンソールについて示す〉

安定して動いているそれぞれのピストンを止めるためには、組合せ命令が要求される。

その組み合わせをセットすることができるのは、唯一、エンジニアの鍵のみである。

### 〈キーとコンソールについて図を示す〉

エンジニアの鍵を、制御コンソールにあるポイントに突き刺す事。

P.9

---

### 〈図〉

それぞれの組み合わせ方は以下の通り。

4号コンソールルーム:

245

3号コンソールルーム:

312

〈スタビライジング・ピストン・エリアの地図〉

2号コンソールルーム:

124

1号コンソールルーム:

555

P.10

---

来る崇高なる大計画のために、これを書き残す。  
我ら多きがゆえに!!

署名：ジョン・Q. ピアース “切り裂きジャック”

\*\*\*\*\*

This document Copyright c marshmallow 1999. All Rights Reserved